

京都・鳥羽遺跡・鳥羽離宮跡

1 所在地 京都市伏見区竹田真幡木町・内畑町地内

2 調査期間 第一四五次調査 二〇〇一年(平13)一〇月～一二月

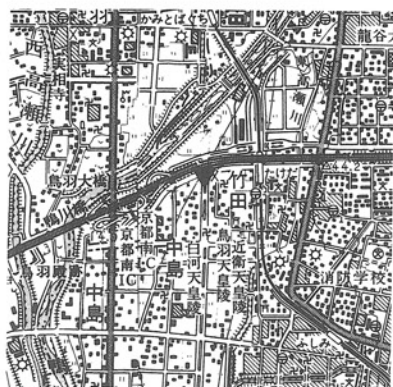
3 発掘機関 (財)京都市埋蔵文化財研究所

4 調査担当者 尾藤徳行

5 遺跡の種類 住居跡・離宮跡

6 遺跡の年代 縄文時代～一六世紀

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(京都西南部・京都東南部)

鳥羽離宮跡は、平安京九条大路から南に3kmに位置し、陸上・水上交通の要衝で、現在の鴨川の南側、名神高速道路京都南インターチェンジの南方にある、東西約一・二km南北約一kmの遺跡である。

白河天皇と鳥羽天皇によって一一世紀後半から一二世紀中頃にかけて造営され、一三世紀中頃にはあまり使

用されなくなり徐々に荒廃していったらしく、一四世紀前半以降、鳥羽離宮の名は史料に見られなくなる。下層には、離宮以前の鳥羽遺跡の存在が明らかになり、縄文時代晩期から弥生時代中期・後期の遺構・遺物、古墳時代の古墳や住居跡などが発見されている。

今回の調査は阪神高速道路公団による京都市高速道路二号线(油小路線)竹田第三工区として、今まで油小路通の工事では調査していないNo.19・20の橋脚部分を、それぞれ約十数m四方(一四〇㎡)調査した。調査地は鳥羽離宮の北限と推定される。

現地表面は標高一六・二mであるが、調査の結果、標高約一五・二m以下が旧耕土層で、その下層は近世・中世の耕土層や包含層となり、ここから少量の近世や中世の遺物が出土した。これらの遺物に混じって、南側のNo.20トレンチでは弥生時代の石剣片やサヌカイト製の石鏃・石包丁・石錐の破片が出土し、北側のNo.19トレンチでは、一四世紀から一六世紀までの土師器皿、青磁碗、瓦器碗、羽釜、古瀬戸皿などが出土し、標高一四・三mの灰色粘土層から柿経二十数点が出土した。

標高約一四mで湧水が激しくなり、調査を終了したが、鳥羽離宮跡や鳥羽遺跡に関する明確な遺構は検出できなかった。柿経は、一カ所にかたまって出土した。共伴する遺物はないが、上下の包含層から一四世紀から一六世紀までの遺物が出土しているので、室町時代頃の柿経であろう。文字や墨痕は一五点に残存する。

8 木簡の釈文・内容

(1)	・ 仏各各 〔子カ〕 中師 〔坐カ〕	(13) × (12) × 0.3 081
(2)	・ 諸仏皆悉来 〔坐カ〕 ・ 其半座結 〔坐カ〕	(35) × 14 × 0.3 081
(3)	・ 万億那由他 〔国カ〕 ・ 仏可就此座	(40) × 13 × 0.3 081
(4)	〔養カ〕 ・ 如是若干諸仏恭敬尊重 ・ 菩提是故諸菩薩摩訶	(103) × 11 × 0.3 081
(5)	・ 億仏亦於 ・ 摩訶薩能	(41) × (5) × 0.3 081
(6)	□ □	(25) × (8) × 0.3 081
(7)	□	(28) × (10) × 0.3 081

(8)	・ □ □ □ □ □ □ □ □	(79) × 9 × 0.3 081
(9)	・ □ □ □ □ □ □ □ □	(22) × (12) × 0.3 081
(10)	・ □ □ □ □ □ □ □ □	(41) × (4) × 0.3 081
(11)	・ □ □ □ □ □ □ □ □	(35) × (10) × 0.3 081
(12)	・ □ □ □ □ □ □ □ □	(18) × 10 × 0.3 081
(13)	・ □ □ □ □ □ □ □ □	(7) × (12) × 0.3 081
(14)	・ □ □ □ □ □ □ □ □	(25) × 12 × 0.3 081
(15)	・ □ □ □ □ □ □ □ □	(33) × (8) × 0.3 081

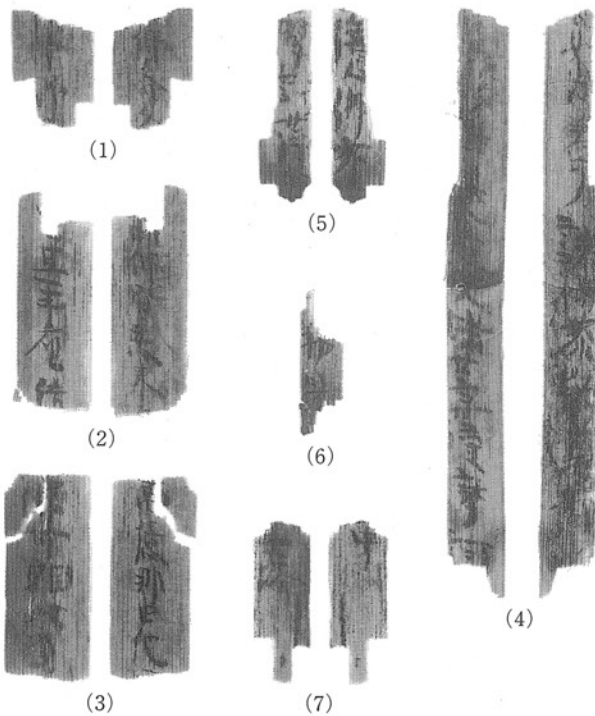
(1)～(3)は『妙法蓮華經』見宝塔品第十一、(4)(5)は同常不輕菩薩品第二十に見られる文言であり、これらの柿経は法華經を寫したものであろう。また、直接接続するものではないが、経文は、(1)表・

(2)表・(3)表…(3)裏・(2)裏・(1)裏、(4)表・(5)表…(5)裏・(4)裏の順に続き、書写過程の推測が可能である。

なお、釈読にあたっては、京都大学の西山良平氏、奈良文化財研究所の渡辺晃宏氏のご教示を得た。

9 関係文献

(財)京都市埋蔵文化財研究所『鳥羽離宮跡・下鳥羽遺跡』(京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報二〇〇一八、二〇〇二年) (尾藤德行)



木簡学会編『日本古代木簡集成』の増刷

創立二〇周年を記念して企画された『日本古代木簡集成』(財東京大学出版会刊)が、刊行後一年を経ずして増刷の運びとなった。増刷にあたって、誤植のほか、左記の訂正を行なった。

木簡91 図版・釈文…正しい接続が判明したため、写真差し替え、釈文を訂正。

木簡271 図版…鮮明な写真に差し替え。

木簡455 図版…天地逆の誤りを訂正。

なお『日本古代木簡集成』の刊行にあわせて、長らく品切となっていた、一〇周年記念図録『日本古代木簡選』(岩波書店刊)も増刷した。いずれも少数数の増刷で、お求めはお早めに。

『日本古代木簡集成』(二刷)

B4判 巻頭カラー図版二プレート、モノクロ図版一二四プレート、解説ほか一四二頁

(財)東京大学出版会刊、定価二〇〇〇円(税別)

『日本古代木簡選』(三刷)

B4判 巻頭カラー図版二プレート、モノクロ図版八五プレート、解説ほか一六六頁

岩波書店刊、定価一八〇〇円(税別)